



## 今回は、1 年 3 組のフィールドワークの報告をします。

### ◇ 私たち 1 班は武芸川温泉を訪問しました

研究テーマ:湯ったり

日 時: 2019 年 8 月 14 日(水) 10:00 ~ 14:00

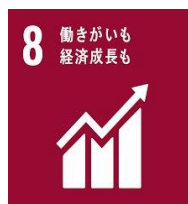
訪問先: 武芸川温泉

参加者: 秋本一華 梅村理玖 木村尚輔 神木元太 堀口さくら子 三輪息吹 柳田夢叶

### ◇ フィールドワークを通して学んだこと・感想



私たちは関市の観光に目を向けた。調べてみると、観光の目的としてや、日本の魅力として、温泉が多く挙げられていることがわかった。そこで、関市の温泉の中で有名な武芸川温泉に実際に足を運び、観光地としてどのような工夫をしているのか調べることにした。今回のフィールドワークを通して、地元にも愛されるためには多くの趣向を凝らす必要があることが分かった。武芸川温泉では、周辺の自然を活かした造りや、地元の食材を使った料理を提供するなど、地元の良さを盛り込んだ様々な工夫をしていた。また、温泉としてだけでなく、憩いの場としても利用できるような設備も整っていた。これらのような地元を想う工夫に溢れている事が実感できた。



### ◇ 私たち 2 班は美濃和紙の里会館を訪問しました

研究テーマ: 特特産品

日 時: 2019 年 8 月 18 日(日) 10:00 ~ 12:00

訪問先: 美濃和紙の里会館

参加者: 伊佐地龍ノ助、岸慎一郎、小池歩実、酒向利玖人、浜田望花、三輪大翔、山田実咲

### ◇ フィールドワークを通して学んだこと・感想



私たちは、美濃市の特産品である美濃和紙を活用して、『特特産品』を考案しました。特特産品とは、今ある特産品を組み合わせ、新しい名物を作るという試みです。今回は、美濃和紙とゆず・キウイを使った特特産品を作ることを企画しました。そこで実際に、美濃市にある美濃和紙の里会館を訪れました。

訪問して、和紙は伸縮性に優れている、環境に優しいなど、色々な利点があることが分かりました。最近では、ユネスコの無形文化遺産に登録され、東京オリンピックの賞状に使われるなど、注目を集めています。

そんな和紙と関市の特産品であるゆず・キウイを組み合わせ、香り付きのうちわを作りたいと思いました。しかし、職員の方に話を聞いてみると、和紙は香りが長続きしないことが発覚しました。それをもとに、香りは後付けにし、いつまでもいい香りを楽しんでもらえるようなものにしようと考えました。

このように、世界に誇れる地元の特産品を活用し、地域の産業の活性化に貢献できたらいいと思います。





## 今回は、1年3組のフィールドワークの報告をします。

### ◇ 私たち 3 班はカフェ・茶房 宗休を訪問しました

研究テーマ: カフェを通して町おこしをしよう

日 時: 2019 年 8 月 8 日(木) 9:00 ~ 11:00

訪問先: カフェ・茶房 宗休

参加者: 伊藤凜音 神谷杏奈 小島大樹 末松貴大 野村透生 早野真歩 村雲聖龍

### ◇ フィールドワークを通して学んだこと・感想



実際にカフェに行って食べたり、お店の方にインタビューをしたりすれば、カフェを地域の交流の場として更に活性化するためのヒントが得られるのではないかと考え、このテーマを設定した。

地元の人たちの「もっと関を魅力的な場所にしたい」という思いでつくられた和モダンカフェは、飲食の場としてだけでなく、地域の人との交流や、観光スポットとし

て大きな役割を果たしていることが分かった。建設のための資金を集め、地域の住民の応援が直接かたちになるクラウドファンディングについて詳しく学べた。

地域の活性化のために、ツイッターやインスタグラムなどの SNS を通して、様々な情報を発信していくことを提案したい。

11 住み続けられる  
まちづくりを



### ◇ 私たち 6 班は美濃加茂市役所を訪問しました。

研究テーマ: 外国の方が住みよいまちへ!

日 時: 2019 年 8 月 15(木) 10:00~12:00

訪問先: 美濃加茂市役所 地域振興課

参加者: 上村純平 小椋千潤 粥川陽菜 仲山恭平 古田萌恵 渡邊小夏

### ◇ フィールドワークを通して学んだこと・感想



フィールドワークを通して、日本人が困っていること、外国人が困っていることをそれぞれ調査して、国籍や出身地に関わらず、誰もが住みよいまちをつくることを研究テーマに設定しました。

日本人が困っていることは、「ごみの処理が正しくない」「夜中の騒音」「言語の違いで意思疎通が出来ない」の3つが挙げられました。

外国人が困っているのは、「保険や税金のこと」「施設の利用の仕方について」「言語の違いで意思疎通が出来ない」であることがわかりました。

僕たちにできる解決策として、「簡単に理解しやすい言葉で接する」「笑顔で接する」という2つを提案します。

11 住み続けられる  
まちづくりを





## 今回は、1 年 3 組のフィールドワークの報告をします。

### ◇ 私たち 4 班は民泊を訪問しました

研究テーマ：外国人の♡をキャッチング！！

日 時：2019 年 8 月 16 日(金) 13:30 ~ 14:30

訪問先：民泊 古田さんの家

参加者：井上寛太、後藤海斗、後藤優斗、田口夢夏、白村有菜、藤井大輝、森智里

### ◇ フィールドワークを通して学んだこと・感想



今回のフィールドワークを通して、外国人観光客が関市に来る目的の 1 つに、静かな環境で過ごしたいという理由があることに驚きました。また、自分の家を貸して旅行者に負担をかけないようなおもてなしをしていることにも驚きました。

私たちは、相手に満足をしてもらおうとするために、私たちがあれこれとすることで、かえって相手に迷惑をかけることがあるのだと学びました。

11 住み続けられるまちづくりを



### ◇ 私たち 4 班は市役所を訪問しました

研究テーマ：外国人の♡をキャッチング！！

日 時：2019 年 8 月 16 日(金) 16:00 ~ 17:00

訪問先：関市役所 観光課

参加者：井上寛太、後藤海斗、後藤優斗、田口夢夏、白村有菜、藤井大輝、森智里

### ◇ フィールドワークを通して学んだこと・感想



今回のフィールドワークを通じて、関市では、主に外国人観光客に向けて 2 つのことを行っているのだとわかりました。

1 つ目は、英語版や中国語版のパンフレットなどの作成で、外国人に関市は何が有名かをわかりやすく教えていることです。2 つ目は、キャッシュレス決済の積極的な導入です。現在、関市内の商業施設では、ペイペイやオリガミペイなどが導入されています。

私たちは、外国人観光客の視点で何があれば観光するのに不便にならないのかを考えることが必要なのだ改めて実感しました。

11 住み続けられるまちづくりを





## 今回は、1 年 3 組のフィールドワークの報告をします。

### ◇ 私たち 5 班は関市役所を訪問しました

研究テーマ: 本町の古民家改造大作戦

日 時: 2019 年 8 月 16 日(金) 10:00 ~ 11:00

訪問先: 関市役所(市民協働課)

参加者: 岩田悠市 亀井紫乃 蔵園碧 武井海斗 藤吉彩音 吉田正剛

### ◇ フィールドワークを通して学んだこと・感想



市役所の方々から話を聞き、本町の店舗数が平成 12 年の 181 件から 98 件と半数近くまで減少していることが分かった。そして、少子高齢化の影響も受けて人口が大幅に減少し、シャッター街となっていることが分かった。

それに伴って空き家の増加、公共施設の維持の難化といった問題が起こっている。本町以外も例外でもなく、関市全体でも過疎化が進んでいる。そのため、都市に公共施設を集中させ、人口を都市部に誘導し、施設の維持をやすくするという関市立地適正化計画などの活動を市全体で行っている。

その中の活動で私たちが注目したのは、ある公民館の利用だった。その公民館は使われていなかったが、学習スペースや休憩スペースとして利用したり、高齢者のリハビリやグループ活動、子連れの遊びの場として利用したりしているようだ。それによって歴史的な公民館を守っている。

他にも、「町づくり市民会」では、コミュニティづくりのために市に事業提案を行っている。その活動によって、店に入るきっかけを作っている。それらの活動を参考に、本町の発展のために、使われてない古民家を改造し、若者や高齢者、子育て世代が利用できる施設を作るという意見を提案する。

11 住み続けられる  
まちづくりを

